



子どもの事故を防ごう！

子どもの事故は家庭内での処置のみですむ事故を含めると、とても多く、医療機関を受診し、救急の治療を必要とする事故も少なくありません。周囲の大人たちが、子どもの身の回りの環境にちょっとした注意を払い、対策を立てることで、防げる事故があります。また、日頃から安全に過ごすために、してはいけないことを子ども自身が気づけるように話してあげることも大切です。

子どもに起こりやすい事故の分類を少しですが、紹介します。

できやすい 溺水

海や川での発生が多いと思われがちですが、1歳前後では家庭の浴槽で起こることがとても多くなっています。家庭での溺水は、子どもだけでの入浴やお母さんの洗髪中、ちょっと着替えを取りに行った、などのほんのわずかなすきに起こります。

対策

- 子どもだけで浴室に入れないようにする。
- 子どもが小さいうちは、浴槽の水は必ず抜く。
- 子どもを浴室で一人きりにしない。
- 髪を洗う時には子どもを浴槽から出す。



[こどもの事故と対策 \(http://kodomo-qq.jp/jiko/index.php\)](http://kodomo-qq.jp/jiko/index.php)

こちらのサイトで、より詳しい予防法と対策を見ることができます。

こいん 誤飲

子どもの誤飲事故は生後7、8カ月から急増し、3、4歳頃までよくみられます。特に10カ月くらいになると、手にしたものを何でも口に運ぶようになります。これは赤ちゃんが順調に成長している証^{あかし}なのですが、誤飲の危険性は増すことになるので、大人が十分に注意しましょう。

誤飲事故の原因として最も多いのはタバコです。またその次に多いのは医薬品、医薬部外品です。親指と人差し指で作る輪に入る大きさのものは子どもの口に入ります。

対策

- タバコや灰皿を置きっぱなしにしない。
- 薬や化粧品は引き出しや戸棚にいれる。
- 小さなものは子どもの手の届かないところへ置く。
- キッチンで洗剤やアルコール類を放置しない。
- ボタン電池やコインを放置しない。

誤飲などの事故だけでなく、発熱や腹痛などが起こった時は、

小児救急電話相談 #8000 へ！

小児科医師・看護師からお子さんの症状に応じた適切な対処の仕方や受診する病院などのアドバイスをうけられます。

「こどもの救急」(<http://kodomo-qq.jp/index.php>)

気になる症状別に対処法を見ることができます。

正しい手洗いで、感染症に負けない！

6つのポーズでお家でも楽しく一緒に手洗いをしてみましょう。

